

熊本地震における湯布院での文化財の被害

梅野敏明

平成二八年四月に発生した熊本地域を震源とした地震（以下、「熊本地震」と略）により、大分県各地でも甚大な被害が発生した。私が生まれ育った湯布院地域は活断層が集中している地域の一つである。そのため、地震の被害が著しかった。この場をお借りして、湯布院地域の文化財に対する被害を報告したい。

○若宮八幡神社（湯布院町川北）

湯布院町川北地区に鎮座する若宮八幡神社では地震の激しい揺れにより、多くの石造物が倒壊した。

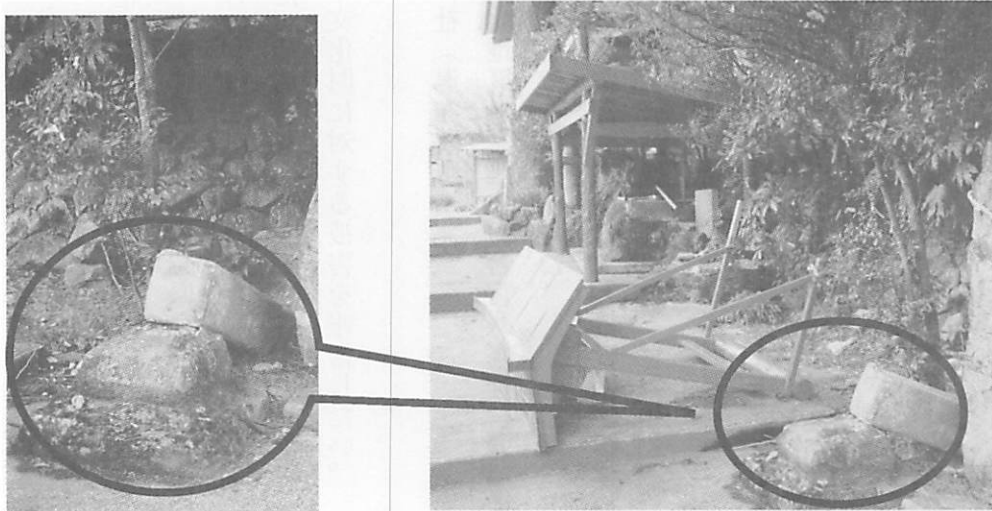
境内の中は危険なために入ることにはできず、建物の様子は確認できなかつた。



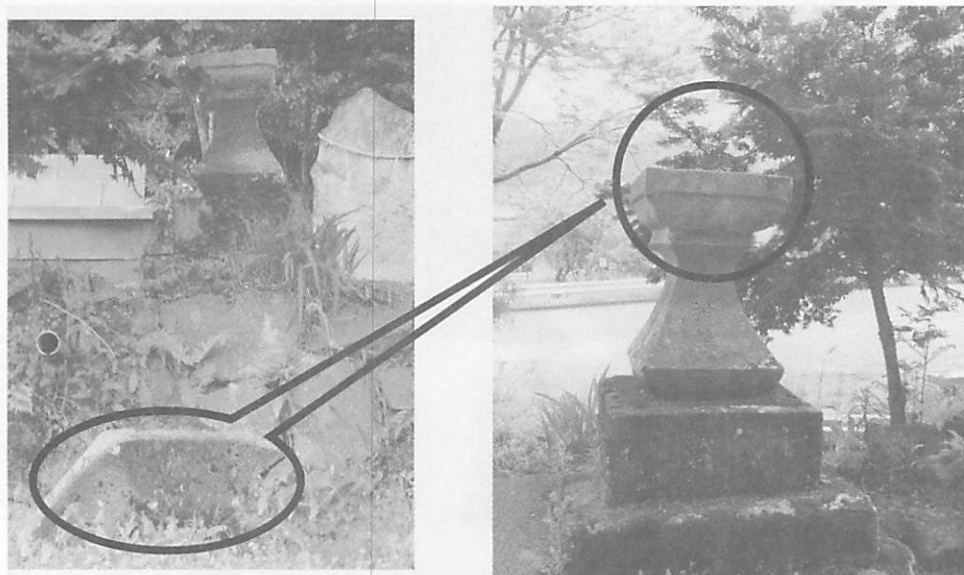
地震により倒壊した鳥居
(平成28年4月16日撮影)



倒壊した石造物が散乱する境内（4月16日撮影）



神社の手水所付近
 (※左の写真は右写真に写っている石造物を別の角度から撮影したもの)
 (4月16日撮影)



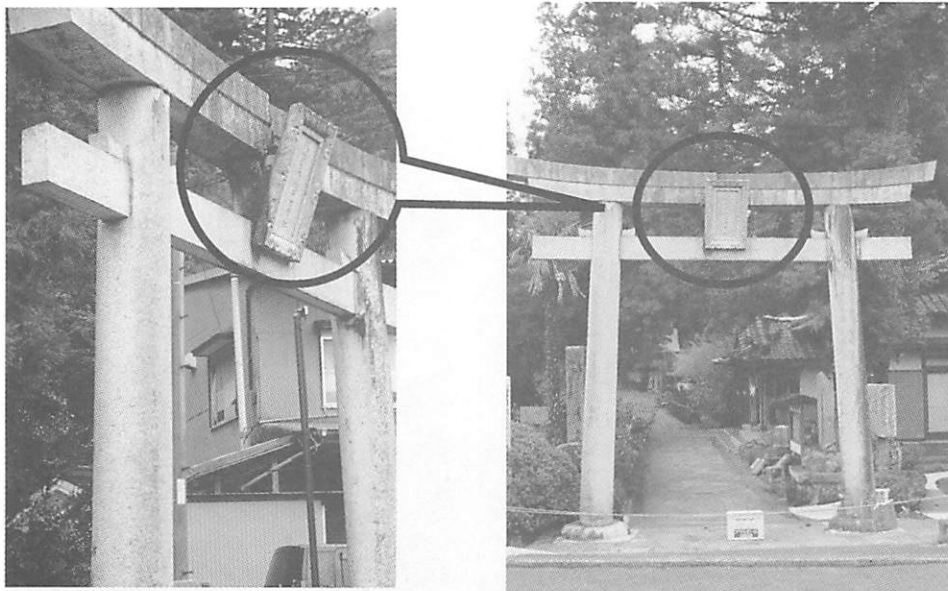
参道にあった石造物(石灯笼か)の笠の部分が
 一段下の駐車場に転落している
 (4月16日撮影)

○宇奈岐日女神社（湯布院町川南）

観光名所で有名な宇奈岐日女神社でも、「熊本地震」の激しい揺れによって境内には立ち入りが禁止になっていた。今回は可能な範囲で確認した。



宇奈岐日女神社の駐車場から撮影
（4月16日撮影）



右：立入禁止となった境内
左：激しい揺れでずれた鳥居
（4月16日撮影）

○山肌が崩壊した由布岳（湯布院町塚原地区）

熊本地震以前でも塚原地区から由布岳を見ると、山の斜面が崩壊している様子が観察できた。熊本地震以後、由布岳の斜面がさらに崩れた様子が見られた。

さらに気象庁のホームページによれば、由布岳では有史以来噴火したという記録はないが活火山に分類されている。また、猪の瀬戸を挟んで位置する鶴見岳は噴火の記録があり、油断はできない。



地震で崩れた山の斜面
（4月22日撮影）



崩壊が進む由布岳の斜面
（4月22日撮影）

○霧島神社（湯布院町塚原地区）

塚原地区に鎮座する霧島神社はかかあ天下の「甘酒祭り」で有名な神社である。四月二十二日に確認したところ、この神社の石造物にも石のずれが生じたり、一部が外れるなどの被害がでた。しかし、この神社の本殿には肉眼で見える限りでは特に目立った被害はなかった。



地震で外れた石造物の頭部
（東側参道入口にて）
（4月22日撮影）



地震の強い揺れに耐えた建築物
（霧島神社本殿）



地震で一部がずれた石造物
（北側参道にて）

○古文書を活用した災害史の提唱

本稿は、熊本地震をうけて急遽執筆したものであり、いろいろと不備が目立つと思われる。また、この原稿は単なる私の興味本位から書いたものでもない。私があえて湯布院における文化財の被害状況について、本誌という場を借りて発信することで後世に対する貴重な記録となると感じたからである。

大分県では、大分県立先哲史料館が古文書などの記録史料から地震や津波に関する情報を収集して展示などの啓発活動を展開していた。また、平成二八年三月一日には地震に関するシンポジウムを開催していた。

しかし、その一か月後に今回の熊本地震が発生し、由布市湯布院町をはじめとして大分県各地に大きな被害を与えた。由布市の中で歴史の情報誌を発行している唯一の団体として、挟間史談会においても古文書などから地震などの災害の記録を収集して、広く市民に広める必要を強く感じている。

私も挟間史談会の会員として、由布市における災害史の情報を古文書などから収集して会誌にて報告していきたいと思う。

(今回の熊本地震において、災害に会われた方々に謹んでお見舞いを申し上げるとともに、一刻も早い復興を心からお祈り申し上げます。)



熊本地震後の湯布院の遠景（4月16日撮影）